

山行報告書

作成: 2006年6月7日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	取立山(1564m) [木曽]	目的[方法]	水芭蕉鑑賞と福そば賞味
期間	2006年5月27日(土)28日(日)	形態	前泊 周回コース
参加人数	3人(内1人メンバー外)		

行動記録:

5/27(土) 曇り時々小雨、

岩津市民センター(21:00) === 豊田東IC(21:10) ==白鳥IC(23:00) = 油坂料金所(23:10) = 道の駅「九頭竜」(23:30) = JR勝原駅(23:40) TS1

5/28(日)朝のうち雨昼頃より曇り後晴れ

TS1(5:40) - いこいの森PKG(6:30, 6:40) - 取立山(7:50, 8:00) - 水芭蕉群生地(8:30, 9:00) - こつぶり山 大滝 PKG(10:00) = 勝山温泉「水芭蕉」(10:35, 11:20) = 福そば陽明店(11:45, 12:15) = 白鳥IC = 豊田IC = 岩津市民センター(14:45)

概念



図:

日誌:土曜日の天候しだいで、私の山行が決定するというので、ぎりぎりの判断で参加させてもらえることになった。最近の天気予報は微妙に当たらず幸いした。土曜の夜は岩津で雨がぼつぼつだし、天候は悪化すると思われたが、何せ花見なので雨天決行となる。N氏には慣れた道であるので安心して夜道を一路ひた走る。同行者が英語しか話せない人であるので少し迷惑だと感じたがお許し願った。白鳥インターから降りて暗い道を走って行くと、突如「ラビット！」ウサギが飛び出してきた。狸の屍骸やら田舎にきた気がした。道の駅でトイレを済ませ、JR「勝原」駅へ、暗い駅に寝袋を引いてすぐ就寝。風が激しく木を揺らし天候の変化が心配された。夜中に来訪者らしき人が来たが、入ってこずほっとする。

翌朝は、激しい雨で目覚める。5時になると駅舎に電気がともる。5時半頃に一番列車が到着。運転手が不審そうにこちらを眺めるが出発していく。雨が激しいが、降っても行く決めていたのでカッパを装着し出発。少々道に不安そうなN氏であるが、ある種の山勘があり見事に人力ナビゲートをしていこいの森に着く。駐車場には誰もいない。準備をしているうちに軽自動車が出てきてこちらを伺う。(後で分かったことであるが、彼は駐車場係であった。料金 500 円)

かさを差し、カッパを着てといういでたちで登りはじめる。登るにしたがって少しずつ雲が切れていく。残雪の白、新緑の緑のコントラストが美しい。頂上近くでピンクと白の岩うちわを見つける。花を見ながらゆっくり登る。頂上には 1 時間ほどで着く。なだらかな頂上で、視界が少しずつ開け周辺の山々が見える。遠く白山らしい雪を頂いた山が臨まれた。緩やかな坂を下り避難小屋に着いた。N氏が偵察しに先に下る。少し落胆した顔で「残念なことも知れませんが」とのこと。仕方がない、行くしかない。群生地の入り口付近は、未枯れた水芭蕉、しかし発見。奥の方にみずみずしい若々しい水芭蕉の群落発見。

N氏曰「若い水芭蕉は奥深く隠れているのですね??」意味が深い。満足して下山した。露深く新緑が美しく、同行した友人も日本の美を再認識して、感動しきりであった。帰りはN氏の好きなそばを食べ一路帰路に着いた。

感想: 会話を英語でしなくてはならないところが、体も頭も使うよい鍛錬になった山行であった。N氏が帰る頃には英語でコミュニケーションをとるようになり、国際交流でも貢献していただき感謝している。